

「ケレド」と「ノニ」の談話機能

今尾 ゆき子*

キーワード: 談話機能, 焦点の下位タイプ, 焦点化, 非焦点化

要旨

本稿は、「ケレド」と「ノニ」の異同を談話機能の側面から考察したものである。用法の異同は談話機能の相違に起因するという仮説をたて、焦点の概念を導入して「ケレド」と「ノニ」の多岐にわたる用法の分析を試みた。

焦点といえば、従来、「強調の焦点」や「質問とそれに対応する返答の焦点」がもっぱら議論の対象とされてきた。本稿では、これら「強調の焦点」と「質問の焦点」のほかに、「修正の焦点」と「対照の焦点」を援用して、「ケレド」「ノニ」を用いた接続表現にみられる焦点現象を考察した。まず、「～ケレド」節、「～ノニ」節に強調の焦点が置かれるか否かを考察し、次に「ケレド」「ノニ」に続く主節に「質問の焦点」「修正の焦点」「対照の焦点」が置かれるか否かを考察した。

これらの考察から、「ケレド」を用いた場合は「ケレド」に続く主節に焦点が置かれ、「ノニ」を用いた場合は、「ノニ」に前接する要素(「～ノニ」節)に焦点が置かれることを明らかにした。その結果をもとに、「ケレド」「ノニ」の使い分けを統一的に説明する基準の一つとして次のような談話機能の相違を導き出した。

「ケレド」: 前接要素を非焦点化し、焦点要素が後続することを予告する機能を持つ。

「ノニ」: 前接要素を焦点化する機能を持つ。

1. はじめに

接続助詞の談話機能に関する研究は、仮定条件を表わす「ト、バ、タラ、ナラ」を扱ったものが多く、確定条件を表わす「ガ、ケレド¹、ノニ」についてはこれまでほとんど論及されてこなかった。本稿では、「ケレド」と「ノニ」の使い分けを談話機能の相違という観点から分析して、「ケレド」は前接要素を非焦点化し、「ノニ」は前接要素を焦点化する機能をもつことを明らかにする。

* IMAO Yukiko: 名古屋大学大学院文学研究科後期課程(日本語文化)。

¹ 「ケレドモ」「ケド」「ケドモ」などがあるが、「ケレド」に一括して取り扱う。

さて、「ケレド」と「ノニ」は逆接確定条件の接続助詞と呼ばれているが、必ずしも逆接²だけを表わすのではない。特に「ケレド」の用法は、対比・並立・話題提示・補足³など多岐にわたっている。

- (1) 身体の調子が悪いけれど、働いた。 [逆接]
 (2) 野球は好きけれど、サッカーは嫌いです。 [対比]
 (3) 山もいいけど、海もいいね。 [並立]
 (4) 今、週5日制という意見がありますけれど、私は、大賛成です。 [話題提示]
 (5) ——明日の会議に出られますか？
 ——出席します。少し遅れるかもしれませんけど。 [補足]

「ノニ」についても、逆接のほか順接的用法の存在が指摘されている(才田 1980, 仁田 1987)。

- (6) 体の調子が悪いのに、働いた。 [逆接]
 (7) 体の調子が悪いのに、働くな！ [順接] (仁田 1987: 25)
 (8) 体の調子が悪いのに、大変だな。 [順接]

以上の例をみただけでも明らかなように、「ケレド」と「ノニ」を逆接か順接かという基準で括ることは難しい。

「ノニ」の機能を主観性・客観性という基準から考察したものに永野(1958)がある。永野(1958: 164)は「テモ」と「ノニ」とを比較して、下に示すように、意志・勧誘などの主観的表現が「テモ」には後続するが「ノニ」には後続しないことを根拠に、「ノニ」は客観的接続機能を持つと指摘している。

- (9) 雪が降っても(*降るのに)出かけよう。
 (10) 雪が降っても(*降るのに)いらっしゃい。

Alfonso (1966: 763), 鈴木 (1978: 247) も永野と同じ見解を表明し、森田 (1980: 384) でも、「ノニ」を客観的接続形式、「ケレド」を主観的接続形式としている。しかし、永野らとは正反対の見解もある。西原 (1985), 今尾 (1993) では、意外な気持や不満感を表わす情意表現が「ノニ」には後続するが「ケレド」には後続しないことを理由に、「ノニ」は主観的接続機能を持つとしている。

- (11) 人が使っているのに(*けれど)、だまって持っていくなんて。(西原: 1985: 35)

² 西原(1985: 28)は、前提概念とずれた表現方法を逆接表現とし、岩澤(1985: 40)は、「Aである、Aでない」という形をとるものを逆接とし、対比をこれに含めていない。本稿では、西原、岩澤に従い、逆接に対比を含めない。

³ 文末に用いられる「ケレド」「ノニ」は、終助詞とするか、接続助詞とするか、議論が別れるところである。本稿では、「倒置的なあるいは後件の省略されたことによって生じた」接続助詞の文末用法(倉持 1971: 213)として扱う。

- (12) これまでなんとか生きのびてきたのに(*けれど), むざむざ死んでたまるか. (今尾 1993: 18)

このように、「ケレド」と「ノニ」の使い分けを主観性・客観性という基準によって説明しつくすことも不可能であろう。本稿では、これら接続助詞の異同に談話機能の相違が関与するものと考え、焦点の概念を導入して分析を試みる。まず、仮定条件節の談話機能に関する先行研究を概観し、次いで、「ケレド」「ノニ」を用いた接続表現の焦点現象を考察する。

2. 仮定条件節の談話機能——話し手の認知態度からの考察

Haiman (1978) が「仮定条件節は談話における話題である」と主張したのを機に、意味論、談話文法、語用論などのレベルで、仮定条件節に関するさまざまな分析が行われてきた⁴。これらの分析を通して、仮定条件節は必ずしも旧情報を表わす話題として機能する訳ではないことが明らかになっている⁵。とりわけ Akatsuka (1986) は、「話題はすべて旧情報である。ゆえに、話題として機能する条件節はすべて旧情報を表わす」という Haiman の論法に対して以下のように反論している。

- (13) (誰かを探しているのを見て)

マリアなら / は 皿を洗っていますよ. (Akatsuka 1986: 348)
新情報・対照を表わす話題

(13) において、「～ナラ」節は話題として機能し、しかも新情報を表わしている。この場合、「ナラ」は対照を表わす「ハ」と交替可能であり、「～ナラ」節は対照を表わす話題 (contrastive topic) である。したがって、話題として機能する仮定条件節が常に「旧情報」を表わすとは限らないというのである。そして Akatsuka は、条件節の意味には thematic topic よりも contrastive topic が関与すると指摘したうえで、談話の要因として先行文脈だけではなく、情報に対する「話し手の認知態度」も考慮すべきであると主張している。

Akatsuka と同じような視点を持つものに、「ト・バ・タラ」の使い分けを考察した小出他 (1981) がある。「タラ」には仮定を表わす場合と順序⁶を表わす場合があるが、小出他 (1981: 46-47) によれば、仮定か順序かは、「～タラ」条件節が担う情報を話し手が「事実として確立されたと考えるか否か」によって決まるといふ。

⁴ 小出他 (1981), Akatsuka (1985, 1986), ヤコブセン (1990) などがある。

⁵ ここでは、久野 (1973) の定義する「文脈から予測可能な情報」を旧情報、予測不可能な情報を新情報の意味で用いる。

⁶ 「順序」は、一般に、時間的前後関係、あるいは継起性といわれるものであるが、ここでは、小出他 (1981) に従う。

(14) A: 明日の音楽会, 行く?

B: 時間あったら, 行くつもりだけど. [仮定]

(15) もうやめた方がいいんじゃない. 甘いものばかり食べてたら, 太るよ. [順序]

さらに小出らによれば, 仮定を表わす「タラ」とは, 条件節が担う情報を事実として確立されていないと話し手が解釈する場合, 順序を表わす「タラ」とは, 事実として確立されたと解釈する場合であり, 前者においては「~タラ」節に, 後者においては主節に「情報としての重み」が与えられて焦点が置かれるという。

(14') A: 明日の音楽会, 行く?

B: 時間あったら, 行くつもりだけど. [仮定]
焦点

(15') もうやめた方がいいんじゃない. 甘いものばかり食べてたら, 太るよ. [順序]
焦点

小出らの指摘にもあるように, 「タラ」「ナラ」などを用いたいわゆる仮定条件節は, 必ずしも仮定を表わさない. それゆえ, 仮定条件節が表わす情報に「仮定性」を認めるか否かという話し手の認知態度がその談話機能を決定するのに大きく関与するのである。

一方, 「ケレド」「ノニ」を用いた確定条件節は「事実として確立された」情報のみを表わす. そこで, これらの談話機能には, 条件節が表わす情報に「相対的重要性」を認めるか否かという話し手の認知態度が関与するという仮説をたてて, 考察を進める. ここで用いる「相対的重要性」とは, 先行文脈などで決定される状況依存的な相対的重要性ではなく, 話し手の認知態度によって条件節と主節のうち何れの情報に重点を置くかが決定されるものをいう。

3. 考察に用いる焦点の下位タイプ

焦点に関する議論は, これまでも談話文法, 機能文法, 語用論の枠組において, 強勢・強調, 情報の新旧あるいは相対的重要性, 疑問のスコープなどさまざまな観点からなされているが (Halliday 1967, 井上 1983, Kuno 1982, 田窪 1987), ここでは, 語用論的機能の観点から話題と焦点を次のように定義している Dik (1978: 19) に従う。

Topic: the Topic represents the entity 'about' which the predication predicates something in the given setting. (発話時の状況において, 何について述べられているかという「何」の実体に相当する)

Focus: the Focus represents what is relatively the most important or salient information in the given setting. (発話時の状況において, 相対的にもっとも重要なあるいは際立った情報に相当する)

焦点にはいろいろな種類がある。Dik et al. (1980: 60) は、強調される要素だけでなく、対照される要素にも焦点が置かれると主張して、対照の有無という基準から焦点現象を下位分類しているが、ここで扱うのは次の 1)~4) である。

- 1) 強調の焦点
- 2) 質問の焦点
- 3) 修正の焦点
- 4) 対照の焦点

「強調の焦点」とは、話し手がかつとも重要な情報とみなして取り立てる要素である ([\emptyset] は、省略されている要素を表わす)。

(16) 母: ケーキを食べたのは、おまえだね?

太郎: [\emptyset ケーキを食べたのは] 僕なんかじゃないよ.
強調の焦点

「質問の焦点」とは、話し手と聞き手との間の情報較差を埋めるべく、話し手が聞き手に求める未知の情報を表わす要素である。これは、Dik et al. (1980) の下位分類では「完成のための焦点 (completive focus)」に相当する。

(17) 誰がケーキを食べたの?
質問の焦点

また、「修正の焦点」は前提を修正する要素で、誤った前提の排除および修正という 2 つのステップが含まれる。

(18) 母: ケーキを食べたのはおまえだね?

太郎: [\emptyset 食べたのは僕じゃなくて] 次郎だよ.
修正の焦点

「対照の焦点」とは、比較・対照される 2 つの要素のうち一方だけに重点を置いて焦点化される要素をいう。

- (19) a. 夏休みに、海へでも行こうか。
b. 山へは行きたくないが、海へは行きたい. [同意表明]
対照の焦点
c. 海へも行きたいが、山へも行きたい. [対立意見を主張]
対照の焦点

このような場合、比較・対照される二つの要素は交替不可能である。二つの要素に対する重点の置かれ方が同等ではなく、主節の要素に重点が置かれているためである。

- (19') a. 夏休みに、海へでも行こうか。
b.? 海へは行きたいが、山へは行きたくない。 [同意表明]
c.? 山へも行きたいが、海へも行きたい。 [対立意見を主張]

比較・対照される二つの要素は、次のように二つとも焦点化される場合もある。「並立の焦点」あるいは、Dik et al. (1980) のいう parallel focus⁷ である。

- (20) a. 夏休みに、どこかへ行かない?
 b. 海へは行くが, 山へは行かない.
 焦点 焦点
 c. 海へも行きたいし, 山へも行きたい.
 焦点 焦点

この場合、2つの要素を入れ替えても意味が変わらないので要素の交替が可能である。

- (20') a. 夏休みに、どこかへ行かない?
 b. 山へは行かないが, 海へは行く.
 c. 山へも行きたいし, 海へも行きたい.

本稿では、2つの要素を同等に焦点化する「並立の焦点」は考察の対象に含めない。以下において、強調・質問・修正・対照の4タイプを取りあげ、「ケレド」「ノニ」を用いた接続表現の焦点現象を考察する。

4. 「ケレド」「ノニ」を用いた接続表現の焦点現象

はじめにも述べたように、「ケレド」と「ノニ」の用法のうち、話題提示の用法は「ケレド」にはあっても「ノニ」にはない。同様に、注釈⁸の用法も「ケレド」にはあるが、「ノニ」にはない。

(21) 中国を旅行されたそうですけど(*のに), いかがでしたか。 [話題提示]

(22) 言いたくないけど(*のに), これでも昔は水泳の選手だったんだ。 [注釈]

話題提示や注釈とは、主節で述べる重要な情報を効率的に伝達するための場面設定や予告である。これらが表わす情報は周遍的で、主節が表わす中心的な情報に比べて重点の置かれ方が相対的に低いといえる。

次のような補足表現にも「ケレド」は多用されるが、「ノニ」は使用できない。

(23) 医者: 毎晩酒を飲まれますか?

患者: 飲みます。一合ぐらいですけど(*のに)。 [補足]

⁷ Dik et al. (1980: 66-67) は、「1つの叙述において2組(または、それ以上)の焦点が存在する」場合を parallel focus (並立の焦点) として、以下の例を挙げている。

A: I know that John and Peter bought a VW and a Toyota. But who bought what? (ジョンとピーターは VW とトヨタを買ったことは分かっているんだが、それぞれ何を買ったのか?)

B: JOHN bought a TOYOTA, and PETER a VW. (ジョンがトヨタを、ピーターが VW を買った.)

⁸ 杉戸 (1983), 才田他 (1983) に従い、「自らの言語行動およびその要素へ言及するメタリンガルな機能を持つ」表現を「注釈」とした。

(23)において、質問者の要求に応じて提示された返答は「飲みます」である。一方、補足的に付け加えられた「一合ぐらいですけど」は、返答者が一方的に提示した情報であって、求められている情報ではない。これらの例は、話し手が相対的に重要でないといみなした情報は「～ケレド」節に置かれやすく、「～ノニ」節に置かれにくいことを示している。このことから、話し手が相対的に重要といみなした情報は、「ケレド」に続く主節または「～ノニ」節に置かれやすいとの予測が立てられる。以下、「S₁ ケレド / ノニ S₂」における S₁ を前件、S₂ を後件と呼び、「ケレド」「ノニ」を用いた接続表現において、それぞれ前件と後件の何れに焦点が置かれやすいかを考察する。

4-1. 前件に焦点が置かれる場合

「～ケレド」節、「～ノニ」節に強調の焦点が置かれうるかどうかを考察する。ある要素を焦点化する方法はさまざまに存在するが、ここで考察の対象とするのは、強意を表わす「トイウ」の付加と後件の省略である。

4-1-1. 強意を表わす「トイウ」の付加

「トイウ」については、引用・伝聞のほかにも、中畠(1990)が、名づけ、つながりの用法があると指摘している。これ以外にも、前接する要素を取り立て、それを強める用法があるとして、森田・松木(1989)は次のような例をあげている。

(24) 一年じゅうこれといってする仕事もなく... (森田・松木 1989: 62)

(25) ほんとに民子さん、きょうというきょうは極楽のような日ですね。(同: 63)

これらは、取り立てられる要素が名詞、代名詞といった「単語」レベルのものに限られている。しかし、次の例が示すように、「トイウ」は「文」全体を取り立てて強調することもある。

(26) うちのチビは、まだ三歳にしかなっていないというのに、日本語より英語の方が簡単だと言うのだ。 [強意] (ときめき)

このような強意を表わす「トイウ」は、伝聞・引用を表わす場合とは異なり、「言う」の本来の意味がなく、「トイウ」を省略しても文意は変わらない。

(26') うちのチビは、まだ三歳にしかなっていない[\emptyset という]のに、日本語より英語の方が簡単だと言うのだ。

一方、伝聞・引用を表わす「トイウ」は、それを省略すると文意が変わるので、省略することはできない。

(27) 午後から雨が降るというが、そんな気配は全然無い。 [伝聞]

(27') *午後から雨が降るが、そんな気配は全然無い。

(28) 天気予報では「午後から雨が降る」というが、そんな気配は全然無い。 [引用]

(28') *天気予報では「午後から雨が降る」が、そんな気配は全然無い。

さて、ここで注意すべき点は、引用・伝聞を表わす「トイウ」が「ケレド」「ノニ」のいずれとも共起するのに対して、強意の「トイウ」は「ノニ」とは共起しても、「ケレド」とは共起しないことである。

(26'') うちのチビは、まだ三歳にしかなっていないというのに(*けれど)、日本語より英語の方が簡単だと言うのだ。 [強意]

(27'') 午後から雨が降るというが(けれど / のに)、そんな気配は全然無い。 [伝聞]

(28'') 天気予報では「午後から雨が降る」というが(けれど / のに)、そんな気配は全然無い。 [引用]

上で述べた強意の「トイウ」と伝聞・引用の「トイウ」との相違点をまとめると、表1のようになる。

表 1 強意の「トイウ」と引用・伝聞の「トイウ」

	強意の「トイウ」	引用・伝聞の「トイウ」
「トイウ」の省略	○	×
「ノニ」との共起	○	○
「ケレド」との共起	×	○

○ は可能, × は不可能を表わす。

表1が示すように、「ノニ」は強意を表わす「トイウ」と共起して、「トイウノニ」は前件の要素を強調することができる。一方、「トイウケレド」という連鎖は前件の要素を強調することができない。

4-1-2. 後件の省略

ここでは後件を省略することによって前件の焦点化が可能かどうかを、以下に示す3種類の省略現象を取りあげて考察する。

- ① 後件の完全省略
- ② 埋め込み文における後件の完全省略
- ③ 代動詞「ダ」による後件の不完全省略

① 後件の完全省略

後件を省略する用法は、「ノニ」にも「ケレド」にもある。文末用法、あるいは終助詞的用法といわれるものである。

(29) 今日こそは晴れると思ったのに(けれど)...

- (30) a. 一郎 「パパはもうその仕事はやってないんだ」
 b. 正一 「(びっくりして) どうして?!」
 c. 一郎 「別のお仕事にまわされたんだ」
 d. 正一 「沖縄のお仕事がすまないのに?!」 (君は, p. 216)

上の (30d) は、後件を省略することにより残された前件が強調された例である。意外感や驚きを端的に表わすために、旧情報の反復を避けて冗長さを排除し、前件の要素が一段と際立てられている。

- (30') c. 「別のお仕事にまわされたんだ」
 d. 「沖縄のお仕事がすまないのに[\emptyset 別のお仕事にまわされた]?!」
 旧情報

このように前件の要素を強調したい場合には、「ノニ」は使用できるが「ケレド」は使用できない。

- (30'') c. 「別のお仕事にまわされたんだ」
 d. *「沖縄のお仕事がすまないけれど[\emptyset 別のお仕事にまわされた]?!」

ところで、自己の論理に反する事柄に直面した場合、(30d) のように疑問表現を用いて半信半疑の気持ちを表わすこともあれば、言下にそれを否定することもある。その際、情報の否定部分(埃はたたない)は省略して、否定の理由だけを述べることがよくある。

- (31) a. 「御湯にお這入んなさらないからですよ」
 b. 「なに埃だよ」
 c. 「だって風もないのに[\emptyset 埃はたたない]」 (虞, pp. 139-140)
 否定の理由

(31c) では、文頭に「だって」が用いられていることに注目したい。この種の「だって」について、森田(1980: 270)は「否定を前提として、何故否定するのかの理由を説明する」と分析している。このように否定の理由を一段と強調する場合にも、「ノニ」は使用できるが「ケレド」は使用できない。

- (31') c. 「だって風もないのに(*けれど)」

② 埋め込み文における後件の完全省略

埋め込み文においても、後件の省略によって前件の要素を焦点化する場合、「ノニ」の使用が可能である。

- (32) …父はいつも「早く帰って手伝え」と嫌みを言うのです。妹は疲れた体で一生懸命勉強しているのにと思うと、無理解な父に腹が立ちます。
 (32') 妹は疲れた体で一生懸命勉強しているのに[\emptyset 父が嫌みを言う]とと思うと、無理解な父に腹が立ちます。

一方、「ケレド」を用いた場合には、次のように後件を省略することはできない。したがって、後件の省略という手段を用いて前件を取り立て、焦点化することはできない。

(32') *妹は疲れた体で一生懸命勉強しているけれど [Ø] と思うと、無理解な父に腹が立ちます。

③ 代動詞「ダ」による後件の不完全省略

焦点化は、後件の旧情報を代動詞の「ダ」で置き換えることによっても可能である⁹。次は、因果関係を表わす「カラ」を用いた接続表現において、後件の旧情報を「ダ」によって代用省略し、前件を焦点化している例である。

(33) a. 昨日はどうして仕事を休んだのですか?

b. 風邪をひいたからです。

焦点 [休んだ]旧情報

このような代用省略によっても、「ノニ」を用いて前件を焦点化できる。しかし、「ケレド」を用いた場合、後続要素を代用省略することができず、これによって前件を焦点化することはできない¹⁰。

(34) 五輪女子マラソンの補欠・谷川真理選手が豪州のゴールドコースト・マラソンで優勝した。3分とも5分ともいわれるロスタイムがあったのにだ。(中)

焦点 [優勝した]

(34') *3分とも5分ともいわれるロスタイムがあったけれどだ。

以上、強意を表わす「トイウ」の付加と後件の省略を取りあげて、「～ケレド」節、「～ノニ」節の要素が強調の焦点となりうるかどうかを考察した。その結果、「～ノニ」節は焦点化されるが、「～ケレド」節は焦点化されないことが明らかになった。

4-2. 後件に焦点が置かれる場合

一般に、重要な情報は文末に置かれやすい。この文末重点の原則に従い、接続表現においても、焦点は後件に置かれることが多い。ここでは、「ケレド」「ノニ」に続く後件において、質問の焦点、修正の焦点および対照の焦点が置かれるかどうかを考察する。

4-2-1. 質問の焦点

Alfonso (1966: 529) によれば、「ケレド」はさまざまな異なり具合のものを対比するが、「ノニ」は正反対のものを対比するという。これを情報構造の観点から解釈すると、「S₁ ケレド S₂」の場合、前件 S₁ の提示だけでは、聞き手は後件 S₂ を予測不可能であるが、「S₁ ノニ S₂」の場

⁹ 久野 (1978: 8) は、これを「ダ」ストラテジーと呼んでいる。

¹⁰ 久野 (1978: 15-16) は、この不適格性を、古い情報を残して新しい情報を省略することができないからだとして説明している。

合、前件 S₁ の提示によって後件 S₂ が予測可能ということになる。

(35) 「S₁ ケレド S₂」
予測不可能

(35') 日本は物価が高いと聞いていたけれど { a. それほど高くなかった.
b. やはり高かった.

(36) 「S₁ ノニ S₂」
予測可能

(36') 日本は物価が高いと聞いていたのに { a. それほど高くなかった.
*b. やはり高かった.

したがって、何らかの事情で、「ケレド」に後続する情報が省略されると、聞き手はそれを予測できないために、省略された情報を求めて質問せざるをえない。

- (37) a. 日本は物価が高いと聞いていたけれど [ø...].
b. けど、何ですか?
c. それで実際はどうですか? 高いですか、それほどでもないですか?

一方、「ノニ」に後続する情報は、前件の情報と意味的に対立するものに限られるので予測可能である。(38b) が不自然なのは、前件の情報をもとに予測可能であると話し手がみなした情報を聞き手が予測不可能な未知の情報として扱っているからである¹¹。

(38) a. 日本は物価が高いと聞いていたのに [ø 実際はそれほど高くなかった].
予測可能な情報

b. *それで実際はどうですか? 高いですか、それほどでもないですか?

また、川本(1976: 116)は、疑問詞疑問文「どうしますか」を判定基準にして、「ケレド」には新情報が後続するが、「ノニ」には後続しないことを指摘している。

(39) 田中さんは来るケレド (*ノニ) あなたはどうしますか?
新情報

これらの例は、「ケレド」「ノニ」のいずれを用いるかによって、新・旧あるいは既知・未知といった後件が表わす情報の種類が制約されることを示している。このような「後件の情報制約」は、「ケレド」「ノニ」に続く後件に質問の焦点を置くことができるか否かに大きく関係する。川本の指摘からも分かるように、「ケレド」には文全体が新情報を表わす疑問文が後続して、質問の焦点を置くことができる。

(40) (あなたは)熱があるケレド 出かけますか?
質問の焦点

(41) (あなたは)熱があるケレド どうしますか?
質問の焦点

¹¹ ここでは、話し手が、語用論的に(発話時の状況において)予測可能な場合を既知、予測不可能な場合を未知とする。

しかし、「ノニ」には新情報を表わす疑問文は後続せず、後件に質問の焦点を置くことができない。

(42) *熱があるノニ 出かけますか?
質問の焦点

(43) *熱があるノニ どうしますか?
質問の焦点

「ノニ」を用いると非文になるのは、「ノニ」には先行文脈および前件の情報から特定できる情報が後続するために、その既知情報が担う前提と質問の焦点とが矛盾するからである。

(42') (外出の用意をしているのを見かけて)
*熱があるノニ[\emptyset 出かける] 出かけますか?
既知情報 質問の焦点

(43') (外出の用意をしているのを見かけて)
*熱があるノニ[\emptyset 出かける] どうしますか?
既知情報 質問の焦点

ただし、文末に「ノダ(デス)」を付加した疑問文は「ノニ」に後続可能である。「ノダ(デス)」には、マクグロイン(1984)が主張するように、「既知の情報として提示する機能」があり、これを付加することによって、「ノニ」に後続する既知情報の存在が保証され、しかも、その既知情報が担う前提と質問の焦点とが矛盾しないからである。

(44) (外出の用意をしているのを見かけて)
熱があるノニ[出かける] ノデスカ?
既知情報

(45) もまた、「出かける」ことを前提にその目的や意図を問うものであり、質問の焦点は「ノニ」に後続する既知情報と矛盾しない。

(45) (外出の用意をしているのを見かけて)
熱があるノニ どうするノデスカ?

(45') 熱があるノニ[\emptyset 出かけて] どうするノデスカ(どうするつもりですか)?
既知情報 質問の焦点

以上の観察から、「ケレド」に続く後件には質問の焦点を置くことができるが、「ノニ」に続く後件には質問の焦点を置くことができないことが分かる。

4-2-2. 修正の焦点

次の(46a)では、「雨が降っているのではないか」という前提のもとに、その当否を問うており、(46b)は質問者の求めに応じて情報を提供する返答である。

(46) (何か降っている気配を感じて)

- a. 雨でも降っているの?
- b. 雨は降っていない。

返答の焦点

しかしまた、情報を求める質問者に対して (47b) のように答えることも可能である。(47b) では、まず、質問者の前提(雨が降っている)を否定し、その後、修正すべき情報「みぞれ」に置き換えている。Dik et al. (1980: 64) やリーチ (1987: 144) の言葉を借りて説明するならば、返答者が「否定の非情報性」に気づいて、前提を否定しただけでは質問者の要求に対して不十分であると判断したからである。

(47) a. 雨でも降っているの?

- b. 雨は降っていないけど、みぞれが降っている。

返答の焦点

修正(置き換え)の焦点

この場合、質問の焦点「雨が降っているか否か」に対応する返答の焦点は、前件が表わす「雨は降っていない」である。しかし、返答者が重点を置いているのは後件の修正要素である。前件に置かれた「質問に対応する返答の焦点要素」は、修正要素を付加することにより省略可能な情報となる。「修正」は「排除(否定)」を前提とし、排除された要素は復元可能だからである (Dik et al. 1980: 64).

(47') a. 雨でも降っているの?

- b. [∅ 雨は降っていないけど、] みぞれが降っている。

前提の排除

修正の焦点

このように、相対的に重要な情報を後件に置く場合には、「ケレド」が選択される。一方、「ノニ」を用いると不自然になる。

(48) a. 雨でも降っているの?

- b. ? 雨は降っていないのに、みぞれが降っている。

(48b) が不自然なのは、4-1 で観察したように、「ノニ」に前接する要素は強調されやすいために、重要度が低いとみなした前件の情報が強調されて、あたかも焦点であるかのような印象を与えるからであろう。

4-2-3. 対照の焦点

コミュニケーションを円滑に行うためには、相手の立場を配慮する必要がある。相手の意見を尊重しながら、しかも自分の意見を主張しようとする場合、相手の意見をいったん認めたくらうで自分の意見を展開する方策が採られる。その際、(49c) に示すような並立あるいは累加と呼ぶ表現がしばしば用いられる。

- (49) a. 「ホホホ兄さんは余っぽど馬鹿ね」
 b. 「馬鹿だって糸公と同じ位な程度だよね。兄弟だもの」
 c. 「おおいやだ。そりゃあ私は無論馬鹿ですわ。馬鹿ですけれども、兄さんも馬鹿よ」 (虞, pp. 155-156)

しかし、並立という表現方式を採っていても、前件と後件に対する重点の置き方は同じではない。同等でないことは、前件と後件とを交換すると不自然になることから明らかである。

- (49') a. 「ホホホ兄さんは余っぽど馬鹿ね」
 b. 「馬鹿だって糸公と同じ位な程度だよね。兄弟だもの」
 c.? 「おおいやだ。そりゃあ私は無論馬鹿ですわ。兄さんも馬鹿ですけれども、私も馬鹿よ」

ここで話し手が主張したいのは「兄さんも馬鹿よ」であって、「私も馬鹿です」ではない。前件と後件とを対照させる場合、後件に焦点を置きたい時には「ケレド」が用いられる。

- (50) (私も)馬鹿ですけれども、兄さんも馬鹿よ
 対照の焦点

しかし、後件に対照の焦点を置く場合には、「ノニ」を用いることはできない。

- (51) *(私も)馬鹿なのに、兄さんも馬鹿よ
 対照の焦点

これまでの考察から、「質問の焦点」「修正の焦点」「対照の焦点」は、「ケレド」に続く後件に置かれるが、「ノニ」に続く後件には置かれなことが分かった。

5. 「ケレド」の非焦点化機能

前節で、「ケレド」に前接する要素は焦点化されず、後続する要素に焦点が置かれることを観察したが、「ケレド」にはまた、焦点要素にそれを付加すると、焦点要素を非焦点化する働きがある。このような「ケレド」の特性は、敢えて焦点をぼかしたり、別のことがらに焦点を移そうとする釈明や正当化の表現に利用される。

- (52) a. 医者： 肝臓がよくないですね。酒は毎日飲まれますか。
 b. 患者： 飲むことは飲みますけど…。 [曖昧化]
 c. 患者： はい、飲みますけど、毎晩一合だけです。 [焦点の移行]
 返答の焦点の非焦点化 焦点化

次は、「ケレド」の付加によって非焦点化された要素が話題として機能している例である。

- (53) a. これどう？ ものがいいでしょう。
 b. うん、ものはいい。
 返答の焦点

- (53') a. これどう? ものがいいでしょう。
 b. ものはいいけど [ø 値段がどうも... (高い)].
 非焦点化
 c. ものはいいけど、値段はどうなの?
 返答の焦点の話題化 相対的に重要な情報

(53)において、質問に対する返答の焦点は「ものはいい」である。そこに「ケレド」が付加されると、重要な情報が後続する可能性が生じる。あるいはまた、「ケレド」が付加された要素は、しばしば (53'c) のように話題として機能する。甲斐(1992: 128)では、対談にみられる「発話末のケレド」には相手に判断を委ねる機能があると指摘しているが、これも、「ケレド」は前接する要素を非焦点化して、後続する要素を焦点化しやすいという本稿の主張と軌を一にするものである。

- (54) 議長: この件についてどのようにお考えでしょう。Aさん、いかがですか。

A: 私は、賛成ですけど... [ø 皆さんはいかがでしょう].
 潜在化する焦点

B: 私は、反対ですけど... Cさんはいかがでしょう.
 焦点 → 焦点の移行 → 焦点

C: 私も、大体賛成ですけど、もう少し議論してはどうでしょう.
 非焦点化 焦点

6. おわりに

「ケレド」と「ノニ」に関しては文レベルにおける用法の記述に留まり、その多岐にわたる用法が見解の対立を生む原因となってきた。本稿は、文文法の意味機能分析では説明が困難ないくつかの用法を統一的に説明するために、談話文法の観点から考察を試みたものである。「ケレド」と「ノニ」の用法の異同は談話機能の相違に起因するという仮説を立てて、Dik et al. (1980) が類型化した「焦点の下位タイプ」を援用して分析した。その結果をもとに、「ケレド」と「ノニ」の談話機能は、次のようにまとめられる。

「ケレド」: 前接する要素を非焦点化し、焦点要素が後続することを予告する機能を持つ。

「ノニ」: 前接する要素を焦点化する機能を持つ。

参 考 文 献

- 井上和子 (1983) 「文一文法から談話文法へ」, 『言語』 vol. 12, 12月号, pp. 38-46, 大修館書店。
 今尾ゆき子 (1993) 「『ノニ』の機能」, 『名古屋大学人文科学研究』 22号, pp. 75-84。
 岩澤治美 (1985) 「逆接の接続詞の用法」, 『日本語教育』 56号, pp. 39-50。
 甲斐陸朗 (1992) 「談話分析の試み(中)——長期研修生受け入れ段階の研修の試み」, 『日本語学』 vol. 11, 7

- 月号, pp. 122-130, 大修館書店.
- 川本 喬 (1976) 「新情報・旧情報の表現」, 『講座日本語教育』第12分冊, pp. 111-120, 早稲田大学語学教育研究所.
- 久野 暉 (1973) 『日本文法研究』, 大修館書店.
- (1978) 『談話の文法』, 大修館書店.
- 倉持保男 (1971) 松村編『日本文法大辞典』, pp. 212-213, 661-662, 明治書院.
- 小出慶一・小松紀子・才田いずみ (1981) 「ト・バ・タラ——談話における選択要因を求めて」, 『アメリカ・カナダ十一大学連合日本研究センター紀要』4, pp. 30-66.
- 才田いずみ (1980) 「『のに』と『ても』」, 『アメリカ・カナダ十一大学連合日本研究センター紀要』3, pp. 37-47.
- 才田いずみ・小松紀子・小出慶一 (1983) 「表現としての注釈——その機能と位置づけ」, 『日本語教育』52号, pp. 19-31.
- 杉戸清樹 (1983) 「待遇表現としての言語行動——『注釈』という視点」, 『日本語学』Vol. 2, 7月号, pp. 32-42, 明治書院.
- 鈴木 忍 (1978) 『教師用日本語教育ハンドブック ③ 文法 I 助詞の諸問題 1』, 国際交流基金.
- 田窪行則 (1987) 「統語構造と文脈情報」, 『日本語学』vol. 6, 5月号, pp. 37-48, 明治書院.
- 中島孝幸 (1990) 「『という』の機能について」, 『阪大日本語研究』2, pp. 43-55.
- 永野 賢 (1958) 『学校文法概説』, 浅倉書店.
- 西原鈴子 (1985) 「逆接的表現における三つのパターン」, 『日本語教育』56号, pp. 28-38.
- 仁田義雄 (1987) 「条件づけとその周辺」, 『日本語学』vol. 6, 9月号, pp. 13-27, 明治書院.
- マクグロイン・H・直美 (1984) 「談話・文章における『のです』の機能」, 『言語』vol. 13, 1月号, pp. 254-260, 大修館書店.
- 森田良行 (1980) 『基礎日本語 2』, 角川書店.
- 森田良行・松木正恵 (1989) 『日本語表現文型』, アルク.
- ヤコブセン, W.M. (1990) 「条件文における『関連性』について」, 『日本語学』vol. 9, 4月号, pp. 93-108, 明治書院.
- リーチ, G.N. (1987) 池上嘉彦・河上誓作訳『語用論』, 紀伊国屋書店.
- Akatsuka, Noriko. 1985. Conditionals and the epistemic scale. *Language* 61, no. 3: 625-39.
- . 1986. Conditionals are discourse bound. In *On conditionals*, ed. E. C. Traugott, et al. 333-51. Cambridge: Cambridge University Press.
- Alfonso, Anthony. 1966. *Japanese language patterns*. Tokyo: Sophia University.
- Dik, Simon C. 1978. *Functional grammar*. Amsterdam: North-Holland.
- Dik, Simon, et al. 1980. On the typology of focus phenomena. In *Perspectives on functional grammar*, ed. Teun Hoekstra, Harry van der Hulst, and Michael Moortgat. Dordrecht: Foris.
- Haiman, John. 1978. Conditionals are topics. *Language* 54, no. 3: 564-89.
- Halliday, M.A.K. 1967a, b. Notes on transitivity and theme in English, Part I (1967a) *JL* 3, no. 1: 37-81. Part II (1967b) *JL* 3, no. 2: 199-244.
- Kuno, Susumu. 1982. The focus of the question and the focus of the answer. *CLS* 18: 134-67.

例文出典

ときめき……家田莊子(1992)「ときめきを抱きしめて」, 中日新聞7月3日夕刊.

君は……倉本 聰(1982)『君は海を見たか』, 理論社.

中……(1992)「中日春秋」, 中日新聞7月14日朝刊.

虞……夏目漱石(1951, 1989 [2])『虞美人草』, 新潮社.